

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	33301101	
事務事業名	国際交流一般管理事業	
予算書の事業名	21. 国際交流一般管理費	
事業期間	開始年度	平成5年度
	終了年度	平成22年度
	業務分類	6. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング
	<input checked="" type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input type="radio"/> 4. 市直営

部・課・係名等	コード1	01020200
部名等	企画総務部	
課名等	地域協働課	
係名等	協働推進係	
記入者氏名	藤田 晶子	
電話番号	0765-23-1017	

政策体系上の位置付け	コード2	332003
政策の柱	基1 にぎわい、活力あるまちづくり	
政策名	3 交流と連携によるにぎわい創出	
施策名	2. 多様な交流の推進	
区分	なし	
基本事業名	国際交流の推進	

予算科目	コード3	001020101
会計	一般会計	
款	2. 総務費	
項	1. 総務管理費	
目	1. 一般管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)				実績		計画		
国際交流、国際社会への知的向上のため、国際交流事業を企画。また、民間団体、市民間で進められる様々な国際交流事業の支援に努める。国際交流事業全般の管理。		単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など) 国際交流担当職員や青少年の海外研修に参加する者	① 国際交流担当職員	人	2	2	2	2	2
		② 青少年の海外研修対象者	人	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
		③						
手段	<平成22年度の主な活動内容> 各種関係協会が主催する研修会等に参加したり資料収集することで、情報交換の実施や国際交流事業を促進する。海外研修に参加する魚津市内の研修生に助成する。 *平成23年度の変更点 変更なし	① 研修会参加・情報収集職員数	人	2	2	2	2	2
		② 青少年の海外研修に参加する者	人	0	1	2	2	2
		③						
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 国際交流に関する情報交換及び職員の資質向上を図る。また、海外研修に参加した青少年が研修を通して国際的な視野が育ったと感じることができる。	① 国際交流に関する知識が高まったと感じる職員・研修参加者	人	2	3	4	4	4
		②						
		③						
その結果	<施策の目指すすがた> 国際理解・交流が深まっている。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入						
◆この事務事業開始のきっかけ (何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 各種団体に加盟することにより、国際理解や交流を進めるためのきっかけづくりを目的としている。		財源内訳	(千円)	0	0	0	0	0
		(1)国・県支出金	(千円)	0	0	0	0	0
		(2)地方債	(千円)	0	0	0	0	0
		(3)その他(使用料・手数料等)	(千円)	0	0	0	0	0
		(4)一般財源	(千円)	167	186	0	0	0
		A. 予算(決算)額(①~④の合計)	(千円)	167	186	0	0	0
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化 (法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 事務事業開始当時は、市内在住の外国人が増加していた。近年は、不透明な日本の経済情勢の中で在住外国人数が減少してきているが、今後ますますグローバル化が進展すると考えられ、国際理解・交流を促進する必要がある。		①事務事業に携わる正規職員数	(人)	2	2	0	0	0
		②事務事業の年間所要時間	(時間)	354	300	0	0	0
		B. 人件費 (②×人件費単価/千円)	(千円)	1,489	1,262	0	0	0
		事務事業に係る総費用 (A+B)	(千円)	1,656	1,448	0	0	0
		(参考) 人件費単価	(円/時間)	4,205	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見 (担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 国際交流事業や環日本海諸国との交流促進。		◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)					
		<input type="radio"/> 把握している	負担金を支出している協会等に加盟している市と金額は把握。しかし、国際交流事業全般については広範囲にわたっており把握しきれない。					
		<input checked="" type="radio"/> 把握していない						

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度（事務事業の施策の目指すがたに対する直結度（対象・意図の密接度）とその理由説明）	
<input type="radio"/> 直結度大 <input checked="" type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 国際社会への理解が進み、国際感覚豊かな職員・市民が増加するが、対象となる人が一部であるため。
2. 市の関与の妥当性（民間や他の機関でも実施可能な事務事業か）	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間（市民・企業等）によるサービスの実施が不可能（又は困難）なため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小（廃止）が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているため、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地（現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明）	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地なし。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地（成果の向上が今後どの程度見込めるか説明）	
なし	説明 成果向上の余地なし
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無（どう効果が高まるか説明）	
あり	説明 「国際交流推進事業」と統合することにより、事務がより効率的に進む。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地（手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明）	
なし	説明 支払対象団体は、県や各市のほとんどが構成員となっており、削減は難しい。
7. 人件費の削減の余地（今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明）	
あり	説明 「国際交流推進事業」と統合することにより、人件費が削減できる。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地（過去の見直しや社会経済状況等から）	
特定受益者なし・負担なし 適正化の余地なし	説明 負担金補助の性質上負担を求めものではない。
9. 本市の受益者負担の水準（県内他市と比較し、今後のあり方について説明）	
<input type="radio"/> 高い <input type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 受益者はいない。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ（この事務事業にどれくらいのニーズがあるか）	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input checked="" type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括

① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり

(2) 今後の事務事業の方向性

<input type="radio"/> 現状のまま（又は計画どおり）継続実施 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	年度
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案（いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか）		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度（平成24年度）	平成23年度から「国際交流推進事業」と統合して事業を行う。 コストの方向性 削減
	中・長期的（3～5年間）	平成23年度から「国際交流推進事業」と統合して事業を行う。 成果の方向性 維持

★課長総括評価（一次評価）

・改革・改善案のとおり進めたい。 ・本当は、国際関係団体負担金の事務事業評価を実施し、不要なものは削減すべきであるが、県内各市横並びその他の事情で現実には難しい。	二次評価の要否 不要
--	---------------

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【1枚目】

事業コード	33301102				
事務事業名	国際交流推進事業				
予算書の事業名	22. 国際交流推進事業				
事業期間	開始年度	平成 5 年度	終了年度	当面継続	業務分類
					6. ソフト事業
実施方法	<input type="radio"/> 1. 指定管理者代行	<input type="radio"/> 2. アウトソーシング	<input type="radio"/> 3. 負担金・補助金	<input checked="" type="radio"/> 4. 市直営	

部・課・係名等	コード1	01020200
部名等	企画総務部	
課名等	地域協働課	
係名等	協働推進係	
記入者氏名	藤田 晶子	
電話番号	0765-23-1017	

政策体系上の位置付け	コード2	332003
政策の柱	基 1 にぎわい、活力あるまちづくり	
政策名	3 交流と連携によるにぎわい創出	
施策名	2. 多様な交流の推進	
区分	なし	
基本事業名	国際交流の推進	

予算科目	コード3	001020101
会計	一般会計	
款	2. 総務費	
項	1. 総務管理費	
目	1. 一般管理費	

◆事業概要 (どのような事業か)		国際交流、国際社会との共生を目指し、国際交流事業を企画し、また、民間団体、市民間で進められる様々な国際交流事業の支援に努める。		実績		計画			
				単位	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
対象	(この事務事業は、誰、何を対象にしているのか。※人や物、自然資源など)	対象指標	① 市民	人	45,562	45,176	45,176	45,176	45,176
	②								
	③								
手段	<平成22年度の主な活動内容> 国際交流推進員の派遣及び国際交流事業の企画、実施	活動指標	① 世界の料理でいただきます等交流事業延べ参加者	人	49	108	110	120	130
	*平成23年度の変更点 商工観光課で作成する観光パンフレットの英語・中国語等の翻訳を国際交流推進員等に依頼		② ハロウィン参加者	人	134	162	170	170	170
			③ 国際交流推進員事案件数(派遣・照会・打合せ)	回	11	10	10	10	10
意図	(この事務事業によって、対象をどのように変えるのか) 外国人との交流が深まる。 国際感覚が豊かになる。	成果指標	① 国際交流推進員として登録する者	人	13	15	17	20	22
	② 国際社会への理解・交流が進み、外国人が訪れやすく、過ごしやすい環境が整ってきていると感じる市民の割合		%	13.5	9.9	12.0	14.0	16.0	
	③								
その結果	<施策の目指すすがた> 国際社会への理解が進み、市民の国際感覚が豊かになり、活発な交流が行われています。 外国人が訪れ、過ごしやすい環境が整備され、まちがにぎわっています。	↑ 成果指標が現段階で取得できていない場合、その取得方法を記入							
◆この事務事業開始のきっかけ(何年頃)からどのようなきっかけで始まったか) 平成元年、タイ王国チェンマイ市と友好親善都市の盟約を締結した。 国際化に向けた市民の関心と今後の在住外国人の増加に備え、国際社会への対応が求められた。				財源内訳	(千円)	0	0	0	0
					(千円)	0	0	0	0
					(千円)	0	48	0	0
					(千円)	203	101	591	591
					(千円)	203	149	591	591
◆開始時期以後の事務事業を取り巻く環境の変化と、今後予想される環境変化(法改正、規制緩和、社会情勢の変化など) 近年、チェンマイ市とは公的レベルでの交流をほとんど行っていないが、友好親善都市の盟約締結をしている以上は、細くても長く交流を続けていく。 魚津市日中友好協会と蓬萊市貿易対外友好協会と友好協定が締結される等、蓬萊市とは民間での交流が進んでいる。 今後ますます在住外国人との多文化共生社会への取り組みが重視されてくる。				①事務事業に携わる正規職員数	(人)	4	3	2	2
				②事務事業の年間所要時間	(時間)	1,137	1,300	800	800
				B. 人件費(②×人件費単価/千円)	(千円)	4,781	5,467	3,364	3,364
				事務事業に係る総費用(A+B)	(千円)	4,984	5,616	3,955	3,955
				(参考)人件費単価	(円@時間)	4,205	4,205	4,205	4,205
◆市民や議会などからの要望・意見(担当者の私見ではなく、実際に寄せられた意見・質問などを記入) 中国蓬萊市及び日中友好協会から、魚津市との行政同士の友好交流の締結を要望されているが、当面は民間レベルでの交流を進める。				◆県内他市の実施状況	(把握している内容又は把握していない理由の記入欄)				
				<input checked="" type="radio"/> 把握している	黒部市、滑川市等国際交流員が在籍している市町は、国際交流員を中心に事業が展開されている。他に、国際交流協会等の同好会的グループによる交流事業が行われている。				
				<input type="radio"/> 把握していない					

平成 23 年度 魚津市事務事業評価表 (平成 22 年度分に係る評価)

【2枚目】

【目的妥当性の評価】

1. 施策への直結度 (事務事業の施策の目指すがたに対する直結度 (対象・意図の密接度) とその理由説明)	
<input checked="" type="radio"/> 直結度大 <input type="radio"/> 直結度中 <input type="radio"/> 直結度小	説明 国際社会への対応のための市民育成事業は他にはない。 中国の成長、交流度合いの増加により在住外国人は増加することが予想され、共存、共生社会への市民の理解が必要。
2. 市の関与の妥当性 (民間や他の機関でも実施可能な事務事業か)	
<input type="radio"/> 法令などにより市による実施が義務付けられている <input type="radio"/> 法令などによる義務付けはないが、公共性が非常に高く、民間 (市民・企業等) によるサービスの実施が不可能 (又は困難) のため、市による実施が妥当 <input checked="" type="radio"/> 民間でもサービス提供は可能だが、公共性が比較的高く、市による実施が妥当 <input type="radio"/> 市が実施しているが、関与の必要性は低く、今後は市の関与を縮小 (廃止) が妥当 <input type="radio"/> 既に目的を達成しているので、市の関与を廃止が妥当	
根拠法令等を記入	
3. 目的見直しの余地 (現状の【対象】と【意図】は適切か、また、見直す場合、その理由と内容を説明)	
なし	説明 現状の対象と意図は適切であり、見直しの余地はない。

【有効性の評価】

4. 成果向上の余地 (成果の向上が今後どの程度見込めるか説明)	
あり	説明 市の国際交流事業に企画の段階から推進員等に積極的に参画してもらうことにより、バリエーションの多い事業推進が図られる。
5. 連携することで、今より効果が高まる可能性のある他の事務事業の有無 (どう効果が高まるか説明)	
あり	説明 「国際交流一般管理事業」と統合することにより成果が向上する。

【効率性の評価】

6. 事業費の削減の余地 (手段を工夫することで、事業費を削減できないか説明、できない理由も説明)	
なし	説明 精査した上での事業費であり、国際交流推進員の今後の活動への影響もあり、見直し余地はない。
7. 人件費の削減の余地 (今の業務時間を工夫して少なくできないか説明、できない理由も説明)	
あり	説明 「国際交流一般管理事業」と統合することにより成果が向上する。

【公平性の評価】

8. 受益者負担の適正化の余地 (過去の見直しや社会経済状況等から)	
特定受益者あり・負担あり 適正化の余地なし	説明 イベント等への参加には参加者負担金を徴収しており、その額も実費相当であるので妥当である。
9. 本市の受益者負担の水準 (県内他市と比較し、今後のあり方について説明)	
<input type="radio"/> 高い <input checked="" type="radio"/> 平均 <input type="radio"/> 低い	説明 イベント参加者の実費相当の負担であり、適正である。

【必要性の評価】

10. 社会的ニーズ (この事務事業にどれくらいのニーズがあるか)	
<input type="radio"/> 全国的又は広域的な課題であり、ニーズが非常に高い <input type="radio"/> 市固有の課題であり、なおかつ市民などのニーズが非常に高い <input type="radio"/> 比較的多くの市民などがニーズを感じている <input checked="" type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがある <input type="radio"/> 一部の市民などに、ニーズがあるが、それが減少しつつある <input type="radio"/> 目的はある程度達成されている <input type="radio"/> 上記のいずれにも該当しない	
11. 事務事業実施の緊急性	
<input type="radio"/> 緊急性が非常に高い <input type="radio"/> 緊急に解決しなければ重大な過失をもたらす <input checked="" type="radio"/> 市民などのニーズが急速に高まっている <input type="radio"/> 緊急性は低い、実施しなければ市民生活に影響が大きい <input type="radio"/> 緊急性が低く、実施しなくても市民サービスは低下しない	

★ 評価結果の総括と今後の方向性

(1) 評価結果の総括

① 目的妥当性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 目的廃止又は再設定の余地あり
② 有効性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> 成果向上の余地あり
③ 効率性	<input type="radio"/> 適切	<input checked="" type="radio"/> コスト削減の余地あり
④ 公平性	<input checked="" type="radio"/> 適切	<input type="radio"/> 受益者負担の適正化の余地あり

(2) 今後の事務事業の方向性

<input type="radio"/> 現状のまま (又は計画どおり) 継続実施 <input type="radio"/> 終了 <input type="radio"/> 廃止 <input type="radio"/> 休止	年度
<input checked="" type="radio"/> 他の事務事業と統合又は連携 <input type="radio"/> 目的見直し <input checked="" type="radio"/> 事務事業のやり方改善	

★改革・改善案 (いつ、どのような改革・改善を、どういう手段で行うか)

		コストと成果の方向性
実施予定時期	次年度 (平成24年度)	平成23年度から「国際交流一般管理事業」と統合して事業を行う。 コストの方向性 削減
	中・長期的 (3～5年間)	国際交流事業に興味関心のある民間・市民団体により、自主的に国際交流事業に取り組める環境づくりを進める。 小中学生など子どもが国際感覚が豊かになるような国際交流事業を展開すべき。 成果の方向性 向上

★課長総括評価 (一次評価)

・C I R (国際交流員) の廃止による事業活動減、チェンマイ市との交流停滞など、事業環境は厳しい状況である。しかし、予算は少ないが、重要な施策、事業であり継続する。改革・改善案のとおり実行したい。 ・	二次評価の要否 不要
---	---------------